



【編集】
富山国際大学
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies

春の林への誘い

残雪も殆ど消え、春先の林を散策する季節となりました。

アオキは立ち上がっていますが、笹など他の草木はまだ寝たまま、昨秋の枯葉の上を気持ちよく歩くことができます。

今朝、初めて気付いたのですが、2号館の裏(北側)には、マンサクの比較的大きな木があり、その名のとおり、春マズサク花として、紐状の花弁を開いていました。マンサクは疫病が全国的に流行っており、東黒牧でも枯れている木があるのですが、しっかりと咲き続けて欲しいと思います。

同じく早春に咲く黄色の花として、体育館横にキブシがあったのですが、こちらは、崖崩れで木自体が根こそぎなくなっています。



ワラビなどの山菜の採取にはまだ早いのですが、残雪の下で既に成長し、雪解けと同時に、春一番の山菜

として手に入るのがフキノトウです。独特のほろ苦さには、好き嫌いがあるかと思いますが、春の到来を味わうことができます。

最近では、促成栽培のタラの芽が春一番を味わおうと売られていますが、こちらはまだ1か月以上先のことです。今年は、東黒牧でも、昨年整備したグラウンド北側の林の中の空き地で簡単に収穫できると思います。

残雪が解けた林床には、コナラの実が沢山ころがっています。晩秋の堅い実では、どうやって芽生えるのか不思議に思われますが、冬の間、雪の下でしっかりと水を吸収すればいいので、既に芽が伸びだしている実もあります。

